

高田本山だより

七四四回の報恩講に

法主 常磐井 鸞猷

日本のことばには、すばらしいことばがたくさんあります。その美しい日本語が次第に忘れられてゆくのは、大変さびしいことです。

「もったいない」ということばも、その一つでした。それが、愛知万博に来日されたケニアのマータイさんによってそのすばらしさが認識され、MOTTAIINAIという世界語になって普及しつつあることは本当にうれしいことです。日本人は外国人に教えられないうと、自国語のすばらしさがわからないのでしょうか。情ないという他はありません。いま、「ごおん」ということばも忘れられつつあります。本山では、一月九日から十六

日まで報恩講が勤められます。親鸞さまの「ごおん」に感謝を捧げるつどいです。では、親鸞さまの「ごおん」とはなんでしょう？ 親鸞さまからどんな「ごおん」を受けたでしょうか。それが感じられなければ、報恩感謝の気持が湧くわけもなく、報恩講にお参りする気にもなれないでしょう。親鸞さまは私たちに、私という人間の実体を教えてくださったのです。それは「欲望に満ち満ちていて、怒り・腹立ち・ねたみ・そねみの心ばかりが絶えず湧き怒り、命の終るまでとどまらず、常に消えることがない。（一念多念文意）」「私たちは善人でもなければ賢人でもない。勤め励もうと

発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjui.or.jp



発行部数 33,000部

いう心もなく、怠け心ばかりで、内面はむなしく、いつわり、かざり、へつらう心ばかりが常にあつて、まことの心が無いのが自分であると知りなさい。（唯信鈔文意）」と明らかに

示されたのです。考えてみれば、まさにその通りでありますと頭を下げざるを得ません。

この自分から脱却する道はないのか。親鸞さまはその唯一の大道をお開きくださったのです。それは、本願の発見でありました。私たちが人間脱却を願うよりはるか以前に、人間の救済を願って止まない強大なエネルギーが達成されていたのです。そのエネルギー

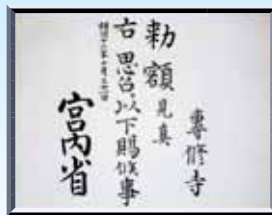
は私たちの上に「南无阿弥陀佛」となって発現し、正道に導き入れます。私たちの先祖代々はお念佛によって救われ、今は佛となつてお守りくださいます。

報恩講は、私たちが八百年の昔から導き続けてくださった親鸞さまにお礼を申上げる集いです。七百五十回の御遠忌に向けてますます盛大にお勤めいたしましょう。



巨大勅額「見真」の迫力 実感できるのは今のうち

平松令三



「大師」号は、天皇から僧侶に与えられる最高の称号です。「弘法大師」が有名ですが、各宗派の祖師には、みな大師号が与えられています。

ところが親鸞聖人には大師号が授けられていませんでした。

そこで江戸時代以来、東西両本願寺と高田専修寺が中心になって、朝廷と幕府へたびたび陳情しました。しかしすべて却下されました。「親鸞は女犯の破戒僧だ。大師の号に値しない」というのがその理由でした。

その当時の法律「僧尼令」では、僧侶の結婚を禁止していたからです。各本山から色々手を尽くして運動しましたが、この壁は破れませんでした。明治維新になって、この法

律が廃止されて、ようやく朝廷に変化が現れ、明治九年（一八七六年）「見真大師」という号が勅許せられたのでした。言うなれば、親鸞聖人はこのとき初めて国家から認められたというわけです。

その号を額にして御影堂に掲げることも許可されました。高田派本山へその正式許可証が来たのは明治十二年十月のことでした。

その勅額はいま御影堂修理工事のため下に降ろされ、金箔を押し直して、御対面所上壇の間に安置されています。そのため間近にそれを拝することができず。縦二五二cm、横二〇二cmの巨大さを実感できるのは今のうちです。

(宝物館主幹)

報恩講とお非時

田上洋心

「そもそも今月聖人の報恩講は、古より今にいたるまでつとめおこたることなく、門弟参詣の儀ますますさかんなり。ひとえにこれ祖師聖人の徳なり。」とは、第十四世堯秀上人の御書の冒頭の一節である。

わたしの寺院では、毎年一月五・六日に報恩講を執行している。

報恩講で頭をよぎるのは、お非時である。わたしが子ども頃は、六升鍋でご飯を炊いたものである。女人講の人たちが手ごこしよく炊事をしていく。かまどに薪を燃やして炊く。その番をするのがわたしの役目であった。お昼、参詣のみなさんは、精進料理をいただいでみえても、わたしは子どもだということ、炊き上がると決まっておこげのおむすびをいただいたものである。おかづは、たくわん漬けだけであるが、そのおいしいことといったらなかった。

今は、ガス釜でご飯を炊くのでおこげはほとんどできない。わたしの子どもたちは、かまどで炊いたおむすびの味を知らない。おいしいといってもその味覚を感じることができない。

そのお非時は、今も続いている。年の初めのことであるから、報恩講のお非時をよばれないと、一年が始まらないと言われる人がある。さらにお非時は、輪島塗りのお椀でいただく。参詣の人数分のお椀が、まだ今のところそろっている。安心である。傷んで使えなくなると、新調するのは高価であるので茶わんになってしまったら、お椀のもつ温かみがなくなり淋しいかぎりである。

もうすぐ年が明けると報恩講である。しかし今年が開山（親鸞）聖人七百五十回遠忌報恩大会の準備のため、延期しなければならぬ。百年振りのことである。御厨子の御洗濯などで三月までかかりそうである。

合掌
(鈴鹿市 西生寺住職)

◆清掃奉仕ありがとうございました◆

汗を流して清掃奉仕

- 9月 蓮乗寺 龍泉寺 西願寺 一身田中学職場体験
 - 10月 光源寺 崇顕寺 了信寺 上品寺 願誓寺 三重長寿社会大学
- 以上のみなさんでした。ありがとうございました。

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面東入 ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

ご和讃のお話

愛洲 祐昭



真宗の肝要を明確に示された和讃であります。この和讃

によって親鸞聖人は二つの「みち」をはっきりと区別されております。一つは唯一真実の本願「大道」であり、もう一つは我々人間があれこれの思ひをもって為すところの万行諸善の「小路」であります。この二つについて聖人は、

「念仏成仏これ真宗 万行諸善これ仮門」

と、「真」と「仮」という言葉をもって区別されています。(念のために書き添えれば、他の宗教各派では「万行諸善」を立派な行いとしているのでありましようが、真宗ではこの

人間ごとを、むしろ迷いの「小路」としております)。

しかし、二つの「みち」が、いつまでも二つのままであつては、何の救いもありません。聖人はこの和讃で、人間の「小路」から、如来の「大道」に帰入することが即ち「涅槃のさとり」であると説かれております。

自分で何でも出来るように思つていながら、結局何も出来ない私の身の上に、涅槃の「大道」は開かれていたのです。それは人間の計らいではなく、如来の本願力によって開かれたものであります。

行く力の無い者が、如来他

力の御催促によって、「小路」から「大道」に「帰入」せしめられてゆくのです。「帰」とは「帰依・帰命」であり、また「法性のみやこへ帰る」ということであります。「法性のみやこ」とは、人間虚妄の心からは窺い知れぬ、真実にして安穩な浄土のことでありましよう。

一日を外で過ごした子供が、「ただ今」と、何の迷うことも無くわが家へ帰るように、我々もまた自然の浄土に帰入されてゆくのです。その子は、たとえ今日が若く悲しい一日であつても、安樂のわが家を中心に温めていたからこそ、一杯生きることが出来たのであります。そして、子にわが家があるように、我々にもまた浄土があるのです。

「帰すべきところ」のはっきりした命を生きることこそが、救われた人生であります。娑婆世界にある我々が、今この場において、浄土世界を頂きつつ生きるということは、この上なく大きな喜びではないでしょうか。このことを我々に知らせんがために、「南無阿弥陀仏」の名号が、私の口から出てくださるのです。私

が出すのではなく、おのずから出てくださるのです。念仏とは、私に「帰すべき大道」をお示しになっている、如来直々の御声でありました。

『歎異抄』第一章に「念仏申さんと思ひ立つ心の起る時・・・」とありますが、これを勘違いして「私が思ひ立つのだ」と頑張ろうとするから、真宗がサッパリ分からなくなってしまうのです。もともと念仏の出るような殊勝な私ではなかったのです。

「念仏申そうとする心」は、私の起こすものではなく、如来発願の回向によって、私に賜つた心であります。この逆方向が真宗と他の仏教との根本的な違いなのです。

善人悪人などという問題は、どちらでもよいことです。共に凡夫です。ただ善人は「自分・・・」という、わが称える念仏の力を頼む気持ちがあるために、如来の他力を頂いていることに気がつくのが遅いだけのことであります。

聖人の御言葉にも「聞くといふは、信心を表す御法なり」とある通り、「聞くこと」自体が信心であります。聞いたら、そこまです。その後の「う

なずく、味わう」などといった人間仕事など、如来の本願には何の関わりもないことでもあります。第一、うなずく私の頭や、味わう私の舌は確かなものでしょうか。

私に、信じる力が有ろうと無かろうと、そんなことには一切おかまい無く、如来の本願力は「南無阿弥陀仏」となつて、衆生の身に至り届いてくださっているのです。私どもはそのこと一つを、ただ聞くだけであります。それこそが真宗の信心でありましよう。(度会郡玉城町 三縁寺住職)

緑と共に75年
三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453

報恩講行事

一月九日(月・祝)
 十二時三十分
速夜勤行 説教 隆妙灑師
新成人のつどい



午後四時三十分
初夜勤行 説教 比良多道晃師

一月十日(火)
 午前七時

晨朝勤行 説教 里榮秀教師
 午前十時三十分
日中勤行 説教 堤妙縫師
 十二時
お七夜坊守会
 十二時三十分
大講堂説教
 中西善薫師

午後二時
速夜勤行 説教 中村宜興師
 午後四時三十分
初夜勤行 説教 中村春洞師

一月十一日(水)
 午前七時

晨朝勤行 説教 中桐利法師
 午前十時
高田保育園報恩講参拝
 午前十時三十分
日中勤行 説教 菱井龍生師
 十二時三十分
大講堂説教 真昌智海師
 午後二時
速夜勤行 説教 伊藤泰臣師
 午後四時三十分
初夜勤行 説教 三栗家篤証師

一月十二日(木)
 午前七時

晨朝勤行 説教 戸田恵信師
 午前十時三十分
日中勤行 説教 高林亮英師
 十二時
お七夜婦人連合会
 十二時三十分
大講堂説教 井東信道師
 午後二時
速夜勤行 説教 廣田隆学師
 午後四時三十分
初夜勤行 説教 松山智道師

一月十三日(金)
 午前七時

晨朝勤行 説教 藤山真哉師
 午前九時
特別講演 栗原廣海師
 午前十時三十分
日中勤行 説教 三山信恵師
 十二時三十分
大講堂説教 藤澤真純師
 午後二時
速夜勤行 説教 金森顕宏師
 午後四時三十分
初夜勤行 説教 長谷部行雄師

一月十四日(土)
 午前七時

晨朝勤行 説教 千草篤昭師
 午前九時
特別講演 梅林久高師
 午前十時
他山御代香
お七夜青年会
 午前十時三十分
日中勤行 説教 織田信海師
 十二時三十分
大講堂説教 林浄光師
 午後一時
お七夜子ども大会

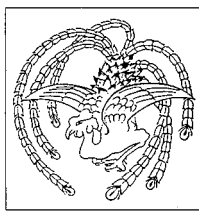
午後二時
速夜勤行 説教 松山智光師
 午後四時
お七夜婦人連合会初夜参詣
 午後四時三十分
初夜勤行 説教 齊藤正澄師



午後二時
速夜勤行 説教 花山光瑞師
 午後四時三十分
初夜勤行 説教 真置美德師

一月十五日(日)
 午前七時

晨朝勤行 説教 大河戸悟道師
 午前十時三十分
日中勤行 御親教 復演 稲垣舜岳師
 十二時三十分
大講堂説教 戸田信行師
 午後二時
速夜勤行 説教 松山智光師
 午後四時
お七夜婦人連合会初夜参詣
 午後四時三十分
初夜勤行 説教 齊藤正澄師



仏壇・仏具
ぬし与

ホーオーが目印!

六代目 **(株)ぬし与仏壇店**

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店



高田本山御用達
 三重県仏教会御推薦
 石碑
 記念碑
 燈籠

 高級御影石専門店
御影石材(株)
 (石に御用の方は) インニョコヨ
 ☎0120-142540
 本店 津市広明町(彰義寺門前)
 ☎059-224-1700(代)



午後九時
護持会通夜念仏
午後十一時
後夜



午後八時
白塚ししこ念仏

一月十六日(月)

午前七時

晨朝勤行 説教 小堀高生師

午前九時

御参廟

午前十時三十分

日中勤行 説教 栗真亮英師

十二時三十分

大講堂説教 安田真源師

その他

重要文化財専修寺御影堂

◆解体部材展示

一月九日～十六日

◆お七夜献書展 期間中

◆お七夜写真展

一月九日～十六日

◆お七夜生花展 期間中

一月十日～十五日

真宗高田派専修寺絵所

◆安川絵師が描く浄土の世界

一月九日～十六日

◆宝物館特別拝観

一月九日 十二時～十五時

一月十日～十五日

十時～十五時

一月十六日 十時～十三時

お非時



お七夜期間中、食堂で出される食事を「お非時」と言います。お釈迦様は正午までに食事をとることを禁じました。

お七夜期間中、食堂で出される素朴なものです。境内を歩いて真冬の寒さで冷えきった体に、朱塗りの器に盛られたあたたかいお非時はとてもおいしくて、つついご飯やお味噌汁をお代わりしてしま

仏教ではお釈迦様と同じように、正午までに食事をすること、正午以降は食事をすべきでない時期（正午以降）に食事をとらわれない食事のことを「お非時」と言います。

七日間で三千人近くの人がお米は七俵（二百八十升）にのほります。お非時を出していただく用度講の皆さんは、お七夜期間中は本山に泊まり込んで朝五時から仕込みをされています。

献立はご飯に大根と豆腐のお味噌汁、ひろず（雁もどき）、金時豆のうま煮と伊勢沢庵と

お七夜期間中は本山に泊まり込んで朝五時から仕込みをされています。

ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス) 本山会席

各種献立よりお選びいただけます。

◆精進料理 1人前 4,000円(税別) ◆本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせ・ご注文は

〒514-0114 三重県津市一身田町2819 TEL:059-232-6079

高田青少年会館 TEL.059-232-6079

世の中 安穏なれ 仏法 ひろまれ

御本山絵所

絵所頭 安川如風 よりご挨拶

昨年4月に御本山に創設されました絵所の「絵所頭」を拝命いただきました、安川如風と申します。本山御用絵師として、一層の努力を重ねていく所存です。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

〒514-0114 三重県津市一身田町2819 TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414 (本山宗務院内 絵所)

リレー法話

「心の内に
生きとるやんか。」

花山 光瑞

末の息子が三才の誕生日を
迎える二ヶ月程前のことでした。
先代の住職が八十六才で往生
浄土の素懐を遂げさせていた
だき、我が家は八人家族から
七人になりました。

息子は数を数えるのが楽し
い時期で、いろんな物を見ては、
「一つ、二つ：」と数えてい
ました。

夕食が終わったある日のこ
とです。「今、うちは何人家
族かなあ。」と私が言うのと、
息子は目を輝かせて数え始め
ました。「一つ、二つ：八つ、
八人や。」「おかしいなあ。
もう一度数えてごらん。」息
子はもう一度数えました。「一
つ、二つ：八つ、八人。」

八脚あるすべての椅子を指
さしながら数えているのを見
て私は、「おじいちゃんはなく
なったんやで。」と言いました。
冒頭の言葉は、その時息子
が発したものです。

三才に満たない幼児の心の

内には、一ヶ月前のおじいちゃ
んが、生き生きと生きていま
した。煙草が好きであった父は、
よく末息子に、「煙草持って
きてくれんか。」と頼み、マッ
チとともに持つてくるのを見
ては、「お前はかしこいなあ。」
と言つて頭をなでていました。
人間として形を失ったとき、
「おじいちゃんは今もここに
たんで。」とえらそうなこ
とを口先で言っていた私に対
して、仏様は声となって私に
無量寿を呼びかけて下さいま
した。
『願いの浄土から生を受け、
願いの内に生かされて、願
いの内に帰つていく真実の命
の尊さ』を
煩惱にまなこさえられて
摂取の光明みざれども
大悲ものうきことなくて
つねにわがみをてらすなり
(浄土高僧和讃)
南無阿弥陀仏
(明和町 迎接寺住職)

とつてもお元気です。

八月二十日の婦人連合大会で、
お元気な姿を見せて下さった、
前岨しづるさんと林登志子さ
んのお二人から想いを届けて
いただきました。



前岨しづる

此の度は阿弥陀様、親鸞様
の有難い御縁を頂き祖師寿を
賜りました事、有難く嬉しく
厚く御礼申し上げます。



林登志子

有難い御法縁に依り祖師寿
を賜る光栄を、家族共々深く
御礼申し上げます。

御法主様、お裏方様、新門
様御夫妻をお近くに拝し有難く、
お裏方様のお手よりお袈裟を
懸けて頂き有難く、嬉しさ一
ぱいで御座居ました。お寺様、
お役の方々様、皆々様の御手
配有難く心より御礼申し上げ
ます。今日まで無事に永らえ
させて頂き、おかげさまと有
難く感謝しております。
お迎え頂きますまで、お念
仏を一途に、おかげ、有難い
を念じてと思っております。
誠に有難うございました。

お裏方様のお優しいお言葉と、
お手づからお袈裟をお懸け下
されました時、今まで張り詰
めていた緊張が不思議と消えて
大きなお慈悲の光に照らされ
ている様で、思わず掌を合わ
せお念仏を称えました。この
ような穏やかな安心がお念仏
の世界かと覚えました。
祖師寿を賜るまだ、元気な
命を頂いた御先祖、支えて下さつ
た家族、お励まし頂いたお寺
様始め、御同行の皆様方に心
より感謝して、この後は専修
念仏報恩に励みたいと誓いま
した。合掌

お墓 寺標 墓地移転 霊園開発造成

高田本山御用達 認定店
石匠位認 認定店
全国優良石材店、

創業100余年

株式会社 石仙 STONES

(旧(有)山本石材店)
四日市市近鉄阿倉川駅前
☎0593-31-4114
マイコーイソ

高田本山御用達

井筒法衣店

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
(〒600-8503) 電話 (075)351-1234(代)
フリーダイヤル ☎ 0120-075-720
フリーダイヤルFAX 0120-075-490

Q&A

シリーズ4

曇鸞大師

「齊朝ノ曇鸞和尚ハ…」の和讃でおなじみの曇鸞大師(四七六〜五四二)は、七高僧の第三祖で、中国山西省の雁門というところでお生まれになりました。

十五歳の頃、近くの五台山の寺々などを巡り、深い感銘を受け、出家しました。内外の経籍を研究し、龍樹菩薩の思想の流れを汲む「四論」にすぐれた学者となりました。

膨大な『大集経』を読み、その註釈書を作ろうとしましたが、仕事の途中で病気になる必要があり、完成のためには長生きする必要がありますと考えました。

そこで、当時、道教の仙術において有名であった陶弘景をはるば

る訪ねて、不老長生の術を教わり、「仙経」十巻を授けられたということでした。

都へ帰り、印度から来られた菩提流支に出会って、「仏法の中で、仙経よりすぐれた不老長生の法はあるでしょうか。」と尋ねたら、流支は、「この世のどこに長生の法があるのか。長生きできても、しばらく死なないだけだ…」と。すぐに『観無量寿経』を授けて、「これにより修行したならば、生死を解脱することが出来る。」と厳しく諭されました。曇鸞大師は、自分の誤りを深く慚愧し、持っていた仙経を焼き捨て、浄土の教えに帰依する事になりました。

親鸞聖人は、このことを讃嘆して、和讃に「仙経ナガクヤキステテ、浄土ニフカク帰セシメリ」とうたわれています。また、『正信偈』、『文類偈』には「梵焼仙経帰樂邦」とたたえられています。

そして、曇鸞大師は、天親菩薩の『浄土論』を深く学び、『浄土論註』を著しました。

そこで説かれている念仏の教えは、本願他力の教えであること、を明らかにされ、自分だけの救いにどまらず、衆生とともに救われることを目指す大乘仏教の極致であるとされています。(教学院第三部)



愚問会法話集Ⅳ 野石に花咲く

生命のすがた 浅野教信/今、失われつつあること 大田利生/他力不思議を味わう 桑原浄昭/仏さま 野村伸夫/「生きよるだけで丸もうけ」の生活 和田節子/阿弥陀仏の化身 親鸞聖人 尾野義宗/長生不死 大綱信融/葬送儀礼と仏教賛歌 川添泰信/真実の教え 近藤利尊/尊厳死について 北塔光昇/この「私」と他の「私」 深川宣暢/世をいとふしるし 武田晋外 定価2100円税込

雪灯塾法話集Ⅲ 北のとももしび

弘誓の願い 打本厚史/パジャマで御正忌報恩講 打本文麿/いきぬくちから 江尻法誠/昨今の葬儀 門上誓明/失われた言葉 川添泰信/アイ・カンボジアを訪れて 北塔光昇/亡き父よりの言葉 倉田彰道/「信心いたたく」と「信心獲得す」 竹中尚文/平和とは 永江龍心/お浄土参りは私ごと 藤本利昭/外 定価1365円税込

無名会同人編 仏と人 39

聖人七十五回大遠忌を前に 足利孝之/代るものあることなし 源 義春/もつたいないの奥義 南部松雄/不可思議がなぜ信じられなくなったのか 太田信隆/私の戦後史Ⅲ 何もしていないことをしている 森正隆/救われるということ 1 梯實圓/青色青光 高田慈昭 定価410円税込

600 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入 永田文昌堂 電話 075533711 015023511 0200490653 振替 FAX 075533711 015023511 0200490653



宗報等でご存知だとは思いますが、本山では花蓮を育て始めて2年目が過ぎようとしています、来年3月頃には根分けをする予定です。その時に予約を頂き10種類60鉢分を容器・肥料付きで皆様にもお分けして管理費の一部にしたいと考えています。数に限りがありますので先着順でお願いします。

TEL 059・232・4171

宗務院藤原まで

- ① 藤壺蓮 10鉢分 ピンク大型
 - ② アメリカ白蓮 5鉢分 白大型
 - ③ 大賀蓮 8鉢分 ピンク大型
 - ④ 明光蓮 5鉢分 ピンク大型
 - ⑤ 中日友宜蓮 3鉢分 ピンク大型
 - ⑥ 白君子小蓮 10鉢分 白小型八重
 - ⑦ 白碧台蓮 3鉢分 白大型八重
 - ⑧ 和蓮 2鉢分 ピンク大型
 - ⑨ 妙蓮 2鉢分 ピンク大型
 - ⑩ 嘉祥蓮 2鉢分 白大型
- 合計60鉢分
一鉢1万円

これからの本山諸行事

本山諸法会

◆中興上人御正當

十二月八日〜十日
高田派第十世真慧上人のお徳を偲んで勤められる法会です。

真慧上人は衰勢に向かっていた真宗の再興をなすとげられた中興の祖です。北陸・近畿方面を巡化され、殊に伊勢路に於いて多くの帰依を得られました。

また本山如来堂のご本尊は、比叡山から念仏門徒全般に疑惑がかけられ、蓮如上人の本願寺も破却されるという事件が起きた時に、真慧上人は自ら比叡山に赴き、高田専修念仏の真義を叡山の学僧の前に説かれ、誤りが無い証拠として贈られた為に「証拠の如来」と呼ばれています。

◆修正会

一月一日〜三日

阿弥陀如来とともに新年を迎えられたことを喜ぶとともに、如来の恩徳を謝し如来の本願を届けて下さった祖師の方々に讃仰する年の初めの法会です。

一月一日の晨朝は、法主殿が自ら御仏飯を上げられる「御親給」が行われ、ご廟でのお勤めもあります。

編集後記

私の住む町は十二月になると、お同行のお宅を一軒一軒まわり、報恩講を勤める習慣がありました。年に一度、お仏壇に五具足を荘厳して、ご近所も集まる年末の風物詩でした。

しかし、最近はその報恩講を勤めるお宅も、すっかり少なくなっ てしまいました。

御開山聖人への想いを、お同行に伝えられなかった住職の怠慢と、反省しています。

お七夜「お尋ねコーナー」のご案内

今年も本山のお七夜に、檀信徒の皆様の要望に応え「お尋ねコーナー」を開設致します。平素皆様が仏事に関する事で、疑問やお悩み事などの相談に応ずる機会を設けました。どうぞお気軽にお出で下さい。お待ちしております。

高田本山教学院

場所 高田本山宗務院一階ロビーに特設
期間 一月九日(成人の日)〜十五日(日)
時間 十時〜十五時 ただし九日は十二時から
担当 仏事に関する事(葬式 年回 仏壇 墓 作法 教義など)何でも結構です。
備考 相談は無料で秘密は固く守ります。

寺院名

印刷のご用命は

オリエンタル印刷 株式会社

本社・工場 三重県安芸郡河芸町上野 2100

(059)245-3111(代)

FAX (059)245-1177